

# イベントまでのスケジュール

令和4年	9月末	イベント案を計画（古澤選手・EBA正岡） 予算・実施日・会場等を調整 神奈川VANGUARDS（西村選手・古澤選手）と EBA栗林・正岡とフェスタ実行委員会ミーティングを 開始しイベント内容等を協議
令和5年	1月	会場及び日程が決定 会場：松山市総合コミュニティセンター体育館 日程：6月17日（土） イベント概要が完成
	3月	協賛企業に生活協同組合コープえひめ様が決定
	4月	EBA内にて実行委員会及び運営委員会を設置 イベント会社アクティオ様と実施委員会を設立し協議を重ねる
	5月	県内各所へ告知開始
	6月	15日（木）表敬訪問実施（愛媛県庁・松山市役所・愛媛県障がい者スポーツ協会） 16日（金）みなら特別支援学校・しげのぶ特別支援学校の生徒さんと交流会実施 17日（土）イベント当日 18日（日）愛媛観光

## 総評

昨年の9月末から、今回のイベント開催までの経緯としては、会場・日程確保から、協賛をいただくことまで初めて対応することが多く、たくさんの方のご協力をいただき実施に結び付いたことは感謝しかありません。

当日は約1,800名の方が松山市総合コミュニティセンター体育館へ集い、車いすバスケットボールの日本一のプレイを楽しめたのではないかと思います。

事前の表敬訪問では、愛媛県知事、松山市参与、愛媛県障がい者スポーツ協会理事長と、お忙しい中お時間を作っていただくことができ、神奈川VANGUARDSの選手も、車いすバスケットボールの魅力や、自分達が日頃行っている競技普及等のお話などをお伝えすることができるいい機会でした。

16日（金）は、みなら特別支援学校の生徒さん約70名との体験会の実施に至るまで、学校と幾度か協議をする中、個性ある生徒さんに対し何が一番いい機会となる内容になるかが最後まで悩みでした。しかし、実際は最初は車いす操作にぎこちない姿の生徒さん達でしたが、選手達が傍でサポートするうちに、自らどんどん車いすバスケットボールを楽しんで行く姿に、幾度も心に響くものがありました。

神奈川VANGUARDSの選手の紅白戦は、10分間の短い時間ではありましたが、初めてみる車いすバスケットボールのスピード・激しい接触に生徒さんのみならず、先生方・スタッフ全員がくぎ付けでした。明日はこれが大観衆のもとメインコートで開催されるかと思うと、期待と興奮が否応なしに高まってきました。

## 総評

午後はしげのぶ特別支援学校へ移動し、交流会を実施しました。

コロナ禍でまだまだ接触に対しては難しいことがあり、事前の打ち合わせでも内容については、直前までこちらも悩ましいことばかりでした。しかしここでも、選手が登場し3X3のプレイをみせると、生徒さんの目がキラキラし始め、当初伺っていた様子をはるかに超えるとても明るい反応がありました。

学年が上がるにつれ、選手が来校することを心待ちにしていたことが、たくさんの質問を用意してくれていたことで十分伝わったきました。そして、生徒さんの質問一つ一つに選手が自分の言葉で、アンサーをする交流は予想以上に生徒さんの心をつかんでいました。交流会の中でも生徒さんから選手へパスをし、シュートを打つというところは大変盛り上がりました。普段は先生に押ししてもらっている車いすを自分で漕いで、パスを行う生徒さんの行動に先生も驚いていました。

最後は、許される生徒さんのみ選手と直接近くでお話や握手などの交流を持つことができました。生徒さん・先生の中には大ファンであった方もいて積極的に選手に話しかける姿や、サインをしてもらったりお話しする様子はとても微笑ましかったです。

神奈川VANGUARDSの選手のみなさんにしか伝えることができないものを、何度も目の当たりにするうちに、感動を超え興奮し心が震える一日でした。

## 総評

16日（金）は18時から会場設営を開始し、21時までに完了とタイトな時間の中、たくさんの方々のお力添えもあり無事設営完了ができました。中でも、20tトラックで届いたお神輿2体の搬入時は、大きな掛け声が上がり、明日の成功を呼び込むかのような力強いものでした。

17日（土）イベント当日はお天気にも恵まれ、8時からの商品の搬入、車いす競技車の搬入等スムーズに行うことができ、観客・選手を受け入れる準備が整いました。

9時開場とともに体験者のチームの受け入れが始まり、オープニングセレモニーは玉井MCの読み込みから選手一人一人がかっこよく登場し、EBA：松尾会長・コープえひめ：美濃理事長様からご挨拶をいただき、いよいよ始まると一段と心高まる瞬間でした。

10時から始まった体験会は、車いす操作・シュート・おにごっこ・ミニゲームのメニューで進み、中でもおにごっこは選手のスピードに驚きながら、一生懸命車いす操作をする体験者の皆さんで賑わいました。

途中コート横でスタートしたミニ体験教室も、延べ250名の方が車いすに乗ってシュートが打てるという体験形式でしたが、神奈川VANGUARDSの選手も途中、声掛けもしてくれる場面もあり、楽しんでいる様子がうかがえました。

コープみきゃん・コープこうすけくんの登場時には、一段と喜ぶ子どもたちの姿が見えました。

## 総評

お昼休みは、お神輿体験イベントを行いました。

2体のお神輿がコート中央で、鉢合わせをし、その後、観戦席近くにお神輿を設置し、お神輿に触れたりお神輿の上に乗せてもらったり、ふれあいの時間を取りました。

13:30から試合前のアップが始まると、どんどん観客が増え始め、会場内の室温が上がっていききました。途中の入場者発表で1,000人を超えたことが伝わって以降も行列は途絶えることなく、瞬く間に会場はいっぱいとなり、最終1,800名近くの方が観客席にいらっしゃいました。

14:00からのトスアップセレモニーは、麒麟の田村さんをお願いし、会場を盛り上げていただきました。その後、試合開始。

神奈川VANGUARDSをホワイト、レッドに分けての戦いです。

チームホワイトは、古澤選手のパス回しに丸山選手、高橋選手が合わせ、得点を重ねる展開。

チームレッドは、鳥海選手のスピードプレイに渡辺選手が合わせるプレイからスタートでした。

何より、鳥海選手のスピードには、会場が度肝を抜かれていました。

また、古澤選手のボールハンドリングの技術は世界レベルであり、車いすを操作しながらのボール裁きは異次元でした。

## 総評

鳥海選手の3ポイントが決まった瞬間、会場中で一番の声援が上がりました。

一時は10点近く、チームホホワイトがリードしていましたが、鳥海選手の速攻や、渡辺選手のシュートでジワリジワリその差を詰め、60対60の同点で終了しました。

その後延長戦を行うこととなり、一段とギアの上がった選手らのプレイは最後まで一切手を抜かず、会場のみなさんを車いすバスケットボールの世界へとりこんだと思います。

残り2秒、古澤選手からパスを受けシュートは放った丸山選手のシュートはリングにはじかれ64対64の同点で試合終了しました。

日本一のチームの紅白戦は日本一レベルの高い見応えのある紅白戦となりました。来場された皆さんの心に、障がい者スポーツを超えた、競技としての車いすバスケットボールの素晴らしさ・面白さ・感動を届けられた試合だと感じています。

やまない拍手と、選手達の笑顔は、WHY NOT? を心に思う古澤選手の想いが形になった瞬間でした。我々も素晴らしい経験をさせていただきました。このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。